

## 平成25年度 年金等学習会

7月4日（木）、福岡天神センタービルにて、平成25年度年金等学習会が開かれ、28支部から73名、退職校長会から4名、県連役員理事8名が参加しました。

水落常任顧問を講師に迎え、年金に関する当面の諸問題や組織強化策等について学習しました。参加されたみなさんは傾聴し、学習会で理解を深めた事を各支部へ持ち帰りました。



水落顧問の講義の様子

## 平成25年度 日公連九州地区連絡協議会

6月4日（火）、5日（水）の2日間、大分アリストンホテルにて、日公連九州地区連絡協議会が開催され、福岡県退公連からは吉田会長と稲田事務局長が参加しました。

九州の各県の代表からは、活動状況の報告や年金問題等に関して質疑応答や活発な意見交換が行われました。



## 平成25年度 日公連全国大会

吉田会長を団長とする12名の福岡県代表は、10月21日（月）、午後4時30分に「ふくおか会館」のロビーに集合した。その夜の懇親会は、福岡県選出の議員、秘書の方々の訪問を受け、各支部の代表は名刺を手渡し情報を交換した。その後、支部の代表は自分の信条や現状などを語り合った。

翌22日（火）は、衆議院議員会館に出向き、要望活動を行った。選挙区ごとに代表者が先頭に立ち、要望書を手渡し、約2時間の要望活動を行った。今回の要望活動の世話を9区選出の三原朝彦議員にお願いした。中村秘書が、国会議事堂見学、昼食手配など3時間の案内・誘導をして下さった。感謝いたします。

最後の活動は、日比谷公会堂での「日公連全国大会」である。約1500名の国会議員が勢揃いした会場は壮観であった。津島会長のあいさつは熱意に溢れていた。伊吹衆議院議長と海江田民主党委員長が「退職公務員のためには党派を乗り越えて協力していこう」と発言され、会場は大きな拍手が

上がった。津島会長のあいさつは熱意に溢れていた。伊吹衆議院議長と海江田民主党委員長が「退職公務員のためには党派を乗り越えて協力していこう」と発言され、会場は大きな拍手が



場所/日比谷公会堂  
開催日/10月22日(火)

起こった。大会では、基調提言、決議、記念講演などがあった。すべてが心に響いた。今年度の決議は提案された7項目のうち、①社会保障改革（年金・医療・介護）に当たっては、高齢者の負担が過重にならないように配慮すること②組織の拡充・強化と活性化に尽力すること③被災地の復興に貢献すること等が採択された。

県代表の12名は、任務を完遂した喜びを胸に抱いて帰福した。



陳情した12名の県代表

### 全国大会参加者

会長	吉田 筑三
東区	堀川 道良
中央区	佐田 昭雄
西区	深江 法子
筑紫南	篠倉 邦男
若松	永田 彰
飯塚	吉松 利文
浮羽	坂手 進
柳川みやま	松尾 秀樹
田川郡	宇野 淳子
豊前築上	御木 淳太
事務局	稲田 瑞穂

# 新支部長紹介



中央区支部長  
佐田 昭雄

会員数が48名で減少傾向にあります。年一回の総会と見学会など、研修会で交流をしています。



筑紫北支部長  
北嶋 司朗

退公連への加入者が減少している。「退公連は、自分のためにあるのだ」ということの意味を、もう一度みんなで真剣に考えたい。



八幡支部長  
村尾 稔

約470名の八幡支部の会長として、会員の絆を大切にしつつ、会の方針を旨とし、八十路を元気に過ごしていきたいと思えます。



若松支部長  
永田 彰

第二の人生を闊歩されている皆さんとともに「生きがい」「笑顔」を醸成できる幸せに感謝しています。座右の銘「感謝」



大牟田支部長  
永井 暢一

9月に市文化会館で、吉田筑三会長を講師に年金学習会をした。会員の年金への理解を深めるとともに会の更なる発展を誓い合った。



柳川みやま支部長  
松尾 秀樹

会員の高齢化や新規加入者減の実態から、支部のまとまりと会員の絆を深める組織強化に取り組みたい。趣味は山登りと海釣りです。



八女支部長  
樋口 順一郎

年々加速化する会員減の中で、仲間のおたかいたかい心遣いに励まされており、絆を大事にすることで輪を広げ、組織を維持発展させたい。



三潴大川支部長  
富安 斗

今回、幸か不幸か支部長に推薦されました。推薦を受けた以上は会の運営発展に尽くします。趣味はスポーツ（登山、テニス）、書道。

## 新女性部長紹介



早良区支部女性部長  
鍋山 徳子



朝倉支部女性部長  
鬼木 弘子



三潴大川支部女性部長  
坂井 保子



浮羽支部女性部長  
馬淵 定子



門司支部女性部長  
乾 節子



小倉支部女性部長  
河野 俊子

## 新事務局長紹介



城南区支部事務局長  
塩原 義允



筑紫北支部事務局長  
重松 正治



八幡支部事務局長  
宮房 史郎



若松支部事務局長  
野口 順弘



飯塚支部事務局長  
田中 博之



八女支部事務局長  
樋口 順一郎



三潴大川支部事務局長  
久良木 直文



小郡三井支部事務局長  
帆足 徳男



田川市支部事務局長  
重藤 喜彦



田川郡支部事務局長  
異儀田 実



全国研修会提出レポート

『生きがいと笑顔で』

支部活動の取り組み

若松支部長 永田 彰

若松支部は『生きがいと笑顔で』を合言葉に活動を続けている。

私たちは、現役の時公僕として社会にいろいろな形で貢献して来たという自負がある。今は、現役を去ってはいるが、一人ひとりをみれば永い年月をかけて培った素晴らしい能力を持っている。その能力を、現役世代に役立てることは、一つの権利であり、義務と考える。さらに、健康を維持し、楽しい生活を営むことも社会貢献の一助であると考えている。

1 支部の定例事業

①役員9名、役員定例会議を月1回行い、会員の動態の情報交換。変化には迅速に対応、さらに「会報」に反映する取り組みをしている。

②総会 総会のメニューは、この支部ともあまり変わりが無いと思う。ただ、終了後の手立て次第で、1年間の活動の参加数が左右される。その一つの手立てとして、以下参照。

◇総会終了後、2日以内に記念写真とお礼状を送付する。(一枚は全体写真、2枚目は個人をクローズアップした組写真) 感謝の声をもらう。(所属感・存在感の醸成)

◇総会には必ず、若松区長・小中学校長・会長の出席を依頼。(会の価値意識の高揚)

③会報 年3回(B5、6ページ) 本部からの新聞と一緒に発送(経費の節約・メール便) 会報は、会員の情報を主に行っている。(会員の絆を強くする最大の手段)

④親睦と会員の絆の構築

◇バスハイイク研修(案内は詳細に、終了後、

会報に報告を密に。意識の喚起として重要)

◇新年交流会(料理・座席案内は丁寧に。その後、会報で報告。意識の喚起として重要) 音楽会、落語独演会、諸芸術活動の共催・後援、年3〜4回は実施。

⑥会員学習会(1、年金について 2、学校訪問・給食試食会 3、研究発表会 4、学校開放週間)

2 組織充実の取り組み

①会員獲得の努力 現役の年齢一覧表を基に、会員獲得の努力をしている。在職中から交流を図り退職時にスムーズに入会できる環境整理をしている。準会員の獲得(趣旨に賛同者) 情報の共有

②お互いの情報を共有 若松支部はまず退公連に入会する場合に、ボランティアとして活動できるものを「自己申告」してもらっている。また、支部が掌握しているボランティア活動を紹介。生きがいの出会い提供・発見。(信頼関係の醸成)

3 地域の諸活動に協力する取り組み

△スクールヘルパー(安心・安全支援、学習支援、登下校支援、見守り) △アフタースクール(基礎学力の充足) △障害者支援サークル△留学生支援ボランティア△地区自治会・センターの紹介△小さな親切運動△教育賛助会△市民センタークラブ紹介△防災防犯活動員△交通指導員△児童に読み聞かせ活動会員△独居老人への支援、見守り訪問活動等

※その他の活動は調整をせしめ頂きます。

支部活動紹介 ①

退公連はどんな団体か

八女支部長 樋口 順一郎

今年度、八女支部副支部長から支部長に昇格することになったが、下部組織である黒木班の班長も兼任している。かつて八女支部は約600名の会員を擁していたが、現在180名に減少、この退公連のあり方について自分なりに考えてみた。

平成9年3月、公立学校を定年退職したが身近な先輩の勧めで4月中旬に入会と同時に、黒木班総会を兼ねた大型齊切バスによる日帰り旅行に参加した。諸先輩方とのふれあい懇親ができて楽しい1日だったが、この時点で「退公連は親睦団体」だと受けとめた。

先輩からの受け継ぎで黒木班世話人から副班長、そして班長、さらに八女支部副支部長へと役職を受けていく中で、私たちの生活の基盤である年金問題を学習する機会が増え、この時点で「退公連は会員の生活を守るための団体」だと捉えるようになった。

八女支部副支部長は組織部長も兼任、発言

今、退公連発足当時の原点に戻るべき

大牟田支部 前支部長 猿渡 恒

退職公務員の年金、医療、介護など生活は年々厳しくなっています。

私たち退職公務員は、退公連発足の昭和23年の原点に立ち戻るべきだと思います。当時の恩給(年金)では米もわずかしかなかった、退職後も内職やアルバイトなどで、細々と暮らした先輩諸氏の苦労を決して忘れてはなりません。

大牟田支部では、発足当時の原点に戻り、諸先輩が開拓された苦勞の道を念頭に敬老表彰の取り組みをしています。支

の機会も多くなり、退公連新聞の過年度分も言の限無く目を通すようになった。先輩が残された記録についても精査、特に昨年度は全国大会にも参加させてほしい、目から鱗が落ちる思いになった。経済成長の停滞、少子高齢化による人口構造の変化等で年金が本来の機能を発揮できない状況は世界的な共通問題である。退公連活動が会員の生活を守る施策に限定することは社会の共感が得られないだけでなく、持続可能な年金受給は不可能なことになる。社会に関わる費用をあらゆる世代が公平に分かちあえるように、自助、共助、公助による助け合いの仕組みを通して持続可能な年金制度の構築が、退公連の上部団体である「退公連は、親睦団体と同時に要望団体で、さらには持続可能な公務員の年金制度構築を求めたい」とある。会員仲間の絆を大切に、本会の維持発展に努めていきたい。

部で独自の敬老表彰の規約を定め、敬老表彰者を80歳(傘寿)・90歳(卒寿)の高齢者へ広げ、また、女性部による表彰対象者へ記念品を作り、県表彰と一緒に表彰式を行い、寿詞、記念品等の授与を行っています。

先輩への敬意、祝意を表すと同様に、現職公務員への退公連活動状況、意義などを啓発活動に努めることも大切で、組織を固め、広げていく上で理解を得るには多くの努力が必要だと痛感しているところです。

支部活動紹介②

小倉支部女性部の

活動を振り返る

小倉支部 河野 俊子

福岡県退職公務員連盟小倉支部女性部の主な活動内容は、賀寿のお祝いと組織強化の取り組みです。



今年の9月に開催した「敬老会」では、卒寿・米寿・喜寿を迎えられた45名の方に、福岡県退職公務員連盟からは寿詞と記念品、小倉支部からはお祝いの品を贈らせていただきました。女性部では、事前に協議して、お祝いの品を決定し、商品の発注、袋詰め、記名等を行いました。

敬老会当日は、寿詞・記念品等の伝達・贈呈の際に、賀寿者の名前の読み上げと寿詞を支部長に手渡す仕事をしました。今年は、参加者全員に、お茶とお菓子の詰め合わせを配布するという初めての試みも実施しました。敬老会は、女性部をはじめ、三役・各専門部が協力して開催しています。

併せて、退職公務員連盟への入会勧誘や会員相互の親睦を深めて退会防止に寄与するなど、微力ながら組織強化への取り組みも行っています。

日本退職公務員連盟 平成25年度 全国大会に参加して

誓いを新たに

若松支部長 永田 彰

昭和恐慌、満州事変、一二六事件、太平洋戦争、敗戦等々と86年間の激動の歴史を刻んだ古色蒼然とした日比谷公会堂で「誇り新たに」を信条に活動を続ける日公連創立66周年全国大会に参加したことは、私にとって、誓いを新たにする有意義な機会だった。

大会の前に三原朝彦議員の第一秘書中村正義氏の確な気配りで、福岡選出の衆議院議員全員との出会いができたこと、さらに、国会議事堂、天皇のお休みどころ、衆議院議長室等の見学ができたことも幸運だった。

前日、宿泊したふくおか会館では福岡県選出の議員の表敬訪問を受け、退公連の重さを感じた。日頃見せない議員の素顔に接することができたことも収穫だった。

さらに、10名の支部長と吉田筑三会長、稲田瑞穂事務局長との旅先でないといけない交誼は、連帯と強い絆の醸成に発展する良い機会だと思った。残念なのは、せっかく全国の会員が集まっていたのだから、何らかの形で交流があれば素晴らしい情報が得られたのではないだろうか。

初参加して

筑紫南支部長 篠倉 邦男

前日、宿舎のふくおか会館で懇親会が開催されました。各代議士事務所事前連絡されていたので、会食が始まる頃には代議士本人や秘書の方など皆さんがあいさつに見えました。そんな中で一人遅れてきた代議士がいました。河野正美議員です。伊豆大島に災害視察に行っていたそうです。どうぞ一緒にとなつて、懇談に加わりました。政界の実情など面白い話が聞けました。

翌日は国会陳情です。三原事務所の中村秘書に案内いただき、各代議士事務所を円滑に陳情できました。鳩山事務所では議員本人に陳情しました。娘さんが福岡市西区に住んでいて、議員が博多湾で魚釣りをしている話など、和やかな雰囲気でした。陳情を終えて思ったのは世襲議員が多い事です。大会は全国からの参加者が多数来賓出席していました。組織は力だな、と感じました。表彰式で愛知県が37年連続会員増で表彰されたのは驚きです。その秘訣を学びたいものです。

活力に満ちた大会

田川郡支部 宇野 淳子

今回田川郡支部の代表として本大会に参加させていただきました。20年ぶりの東京なので心配でしたが、吉田会長さん、稲田事務局長さんの行き届いた温かいお世話で、何の心配もなく最後まで楽しく有意義な参加ができました。お二人には心からお礼を申し上げます。

今回は私ともう一人女性の方の参加があり、年齢も近く共通する話題も多く、終始楽しく、またとても助かりました。県下には女性の会員も多くおられます。今後は多くの女性の参加を強くお勧めしたいです。

退職して年々世間が狭くなり、ぬるま湯の中で生活していますが、久々に大きい大会に参加し、活気に満ちた東京の様子に触れて、気持ちが高ぶり若かった頃の自分に戻った気分でした。また若い国会議員さんが多く、そのエネルギーで真摯なお姿を拝見してとても頼もしく、また羨ましくもありました。自分とのギャップを感じ淋しい気持ちになっている自分に苦笑いしながら飛行機に乗りました。

さらなる組織強化へ

柳川みやま支部長 松尾 秀樹

10月21日(月)、16時半、県本部の吉田会長、稲田事務局長、支部代表合わせて12名が「ふくおか会館」に集合した。情報交換会に国会議員、秘書が激励にいられた。

翌日午前、衆議院議員会館で本県出身の国会議員11名へ陳情、請願を行った。全員で行動し陳情の内容については、各選挙区と関係深い支部代表が訴えた。議員や秘書の方は真剣に対応頂き心強く感じた。その後1時間かけて国会議事堂内の見学をして昼食をとった。

午後、全国大会が日比谷公会堂で盛大に開催された。1,300名の会員が一堂に会し1500名の国会議員が拍手で紹介された。会場は熱気にあふれ津島雄二新会長の所信表明にはじまり、基調提言、決議文の朗読、記念講演と進み「故郷」の大合唱で閉会した。

この2日間を通して、日本退職公務員連盟の存在の大きさを身をもって感じ、新会長のもと、さらなる組織強化の推進に尽力したいと思った。この機会を与えて頂いた本部に感謝して会場を後にした。